

◆教科等研究グループ 各部会からの報告

教科等研究グループ について

戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）は、教師としての資質・能力の向上と、戸田市の教育の充実を目的として研究を推進しています。今年度は各部会でテーマを設定し、10部会が研究に取り組みました。

社会部会

問いをもち、考えが深まる 普段の授業づくり

■研究内容

- ・学習問題を導き出す問いの検討。
- ・1枚の資料をどのように活用するか。
- ・調べる、まとめる学び方。

■研究成果

- ・「何が分かる?」「どんなことが言える?」
→問いかけによる学びの深化
- ・教材をどう見るか。何を資料とするか。
- ・資料の提示方法による思考の変容
- ・学びを広げる問い、導く問い、狭める問い

学習問題は
これからの時代に求められるのは
どんな事だろうか?

①これからの自動車工業についての
課題を見つける。

②A～Cの3つの課題から一つ選んで
調べ、ロイロノートにまとめる。

③関係性を図り、これからの時代には
どんな自動車が必要かを話し合う。

現在の自動車づくりの課題
A.環境問題
B.誰がいのあるひとたち
C.交通事故

エキスパート学習

キーワード
ロイロノートやカードや燃料電池
産業のリサイクル
B.福祉車両
C.エアバッグや自動安全装置

協同学習（歴史劇）
単元「明治の国づくりを進めた人々」
～計画～
・導入 資料や年表を用いて流れを捉える
・目標の明確化、目標・役割分担・練習
・発表
・おさらい・単元のまとめ
・ループリクスの活用によるレポート作成など

算数・数学部会

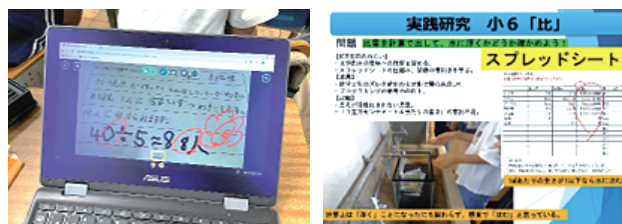
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり ～算数・数学科における効果的なICTの活用～

■研究内容

- ・算数・数学科におけるICTを活用した授業実践。
- ・算数・数学科におけるICTの効果的な活用。
- ・算数・数学科におけるICTを活用する場面の選択。

■研究成果

- ・【主体的な学び】
一人一台端末の環境で課題に取り組むことで課題に
対する意識の向上が見られた。
- ・【対話的な学び】
多くの考えを視覚的に共有し、比較検討できた。
- ・【深い学び】
何度も試行することで課題の追究や課題の解決など
の探究の過程に取り組むことができた。



体育・保健体育部会

体育的な資質・能力を深める体育授業 ～ICTの活用を通して～

■研究内容

- ・体育の見方・考え方を広げる手立てとしてのICT活用。
- ・低学年体育における効果的なICT活用法。
- ・評価資料としてのICT活用法。

■研究成果

- ・自分の毎時間の動きを記録し、変容を確認させるこ
とで、一人一人が技能(動き)の向上を実感し、主体
的な学びへつながった。
- ・作戦ボードにJamboardを用い、蓄積した作戦を基に、
自分の考えを深めて対話する児童生徒の姿が見られた。
- ・学習カードをスライド等にする事で、個々の振り
返りや技能(動き)の習得状況を的確に把握し、授業
改善に生かすことができた。
- ・低学年でも、友達の動きのよさを、実感を伴いなが
ら共有することができた。



外国語活動・外国語部会

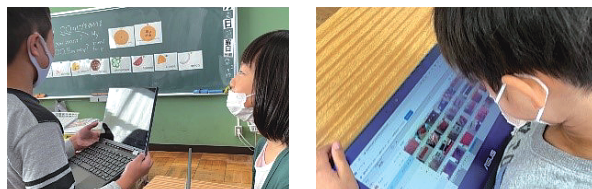
一人一台端末を活用した授業づくり

■研究内容

- ・一人一台端末を効果的に活用した小・中学校での授
業実践例の研究。
- ・外国語科における形成的評価と総括的評価の研究。

■研究成果

- ・「ロイロノート・スクール」のカード交換・カードイン
カード提出ボックス等の機能を活用した自己表現活
動や「やり取り」の活動の幅を広げることができた。
- ・ペーパーレス化により、買い物や道案内などの場面
設定における資料作成の準備時間を短縮することが
できた。
- ・ロイロノート市内共有フォルダを活用したデジタル
教材の共有化により、教員の負担軽減につながった。
- ・学習評価に関する参考資料の評価事例を検討し、指
導と評価の一体化について理解を深めることができた。



特別活動部会

学級会における効果的なICTの活用方法

■研究内容

- ・ICTを活用した意見共有・話し合いの在り方。
- ・ロイロノートにて学級会ノートの作成、実践。
- ・学級活動のほか、クラブ・委員会活動でのICT活用。

■研究成果

- ・ロイロノートによる学級会ノートを使用することで、事前の準備が手軽になったり、意見の集約・共有が容易になったりした。また、学級会の流れもわかりやすくなったことで、児童が話し合いに参加しやすくなった。
- ・さらにICTの利活用が進む中で、集会活動やクラブ・委員会活動においてもICTの自発的な活用が見られるようになり、子供たちが工夫して活動する場面が多く見られるようになった。



プログラミング・STEAM教育部会

「やってみよう・広げよう・深めよう」

■研究内容

- ・各学校の実践共有と実践のブラッシュアップ。
- ・新しいプログラミング教材の体験会及び実践。
(戸田市21世紀型スキル育成アドバイザー為田様との連携)

■研究成果

- ・新たな単元開発や新たな教材を活用した実践共有による協議などを通して、実践の幅や質が向上した。
- ・プレゼンテーション活動におけるScratchの活用や、調査活動におけるIoTブロック(MESH)の活用など、PBL等の課題解決の手立てとして、プログラミングの活用事例が増えた。



特別支援教育部会

個に応じたICTの活用

～特別支援学級から通常学級へ～

■研究内容

- ・特別支援学級だけでなく、通常学級に在籍する様々な困り感を持つ子供たちへの支援の充実、持っている力の伸長につながるような個に応じたICT活用についての実践研究。

■研究成果

- ・表現することが苦手だった児童が、ICTを活用することで、自分から友達に話しかけることができるようになったり、コミュニケーションを楽しむことができるようになったりした。
- ・自己肯定感の低い児童が、ICTを活用して、自分の姿や学習を振り返ることで、自己理解を深めることができ、自分を肯定的に捉えることにつながった。



音読の音が大きくなりました！



リーディングスキル部会

リーディングスキルを育むために

■研究内容

- ・リーディングスキルの視点を生かした授業実践、授業研究会への参加、情報共有等を通して、リーディングスキルに対する理解を深めると同時に、リーディングスキルを高めるための手立てを探る。

■研究成果

- ・小・中学校の様々な学年の実践アイデアを共有することができた。その中で、教科の特性として出てくる学習用語についての扱いの難しさと重要性を認識できた。
- ・児童生徒にとって理解しづらい言葉を教師が事前に把握して指導することが、より確かな学習内容の理解のために大切であることを認識することができた。

空気と水をとじこめて、力を加えると
それぞれの体積はどうなるのだろうか。
空気と水 大きい、小さい、かわらない



イノベーション教育・PBL 部会

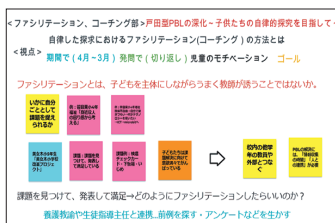
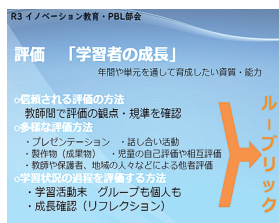
戸田型PBLの深化 ～子供たちの自律的探究を目指して～

■研究内容

- ・PBLにおけるファシリテーション、コーチングの工夫。
- ・PBLにおけるルーブリックの工夫。
- ・PBLにおけるリフレクションの工夫。

■研究成果

- ・ファシリテーションは、特に課題設定時の精査が重要。
- ・「信頼される評価の方法」や「多様な評価方法」、「学習状況の課程を評価する方法」はルーブリックを活用することで、より効果的。
- ・より質の高いリフレクションを行うことは、自分の成長のために必要であり、自分の好きなタイミングで行う、言語（記述）で行うことが重要。



ペアトレ・MIM 部会

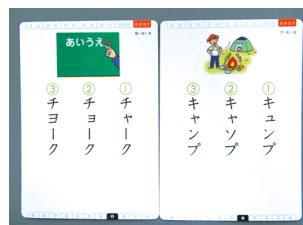
ペアトレ・MIMの実践について ～よりよい支援の実現を目指して～

■研究内容

- ・低・中・高学年、特別支援学級におけるMIMの実践。

■研究成果

- MIMの実践により以下の成果が挙げられる。
- ・アセスメントの分析より、静かに困り感を抱えている児童に気づき、個に応じた支援につながった。
- ・児童自身が読み取る力に意識を向けることができた。
- ・スムーズに音読することができる児童が増えた。
- ・児童が楽しんで実施することができた。
- ・今後、MIMを一人の教員が行うのではなく、学校全体で広めていく必要がある。
- ・アセスメントを指導に活かしていくことが必要である。



令和3年度戸田市立教育センター研究員全体研修会

— 令和の日本型学校教育の構築を目指して — 一人一人を主語にする学校教育

令和3年8月27日(金)、令和3年度戸田市立教育センター研究員全体研修会をオンライン会議システムによるリモート開催しました。各研究グループの研究員に加え、校長、教頭をはじめとする市内各小・中学校から100名が参加し、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、研鑽を深めました。

【講演】特別支援教育の視点を生かした個別最適な学びの実現について

内容1



講 師：海津 亜希子 氏

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター主任研究員

特別支援教育の資質・能力は、特別支援学級の教師だけでなく、どの教師にとっても必要不可欠であることを踏まえ、個別最適な学びの実現に向けた実践的な御講演を賜りました。



【トビタテ！教員プロジェクト】(文部科学省) 参加報告

内容2

報告者：田中 泰貴 氏

戸田市立戸田南小学校教諭

文部科学省事業「トビタテ！教員プロジェクト」に参加した田中教諭より、香港日本人学校や香港補習授業校での3年間の実践を報告していただきました。

